## 組み込み Rust 講習会

Rust 編

**JIJINBEI** 

2024-07-25

HiCoder

#### Table of contents

- 1. はじめに
- 2. 目標
- 3. Rust とは
- 4. 変数
- 5. データ型
- 6. 配列
- 7. 関数、制御フロー
- 8. 構造体とメソット
- 9. ジェネリック
- 10. トレイト

### Table of contents

- 11. 所有権とライフタイム
- 12.  $+\alpha$
- 13. 参考文献

## はじめに

### はじめに

組み込み Rust 講習会へようこそ

この講習会を開いた理由

- 組み込み Rust が難しくて私の学習が進まないので、一緒に学べる仲間を作りたい
- Rust の普及
- ソフト、競プロだけをやるな!! ハードもやれ!!

# 目標

### 目標

- Rust の基本的な文法を理解する
- 難解な所有権、ライフタイムの概念を理解する
- •「基礎からわかる組み込み Rust」や組み込み Rust の公式 ドキュメントを難なく読めるようになる



# Rust とは

#### Rust とは

- Mozilla が開発したプログラミング言語
- Rust は最も愛されている言語として 7 年目を迎え、87% の開発者が使い続けたい と答えている。 [link]
- 最近のオープンソースはすべて Rust で書かれていると言っても過言ではない $^1$

#### **Rust is God**

<sup>&</sup>lt;sup>1</sup>このスライドも Rust 製の Typst で作成

### Rust が好まれている理由

- 安全性
  - ▶ 型安全性
  - ▶ メモリ安全性
    - 所有権
    - ライフタイム
- 処理速度の速さ
- 並行処理
  - ▶ 所有権によるデータ競合の防止
- バージョンやパッケージ管理
  - cargo
- テストがしやすい



### 全銀システム障害

- 発生時期: 2023 年 10 月
- ・ 影響: 全国の銀行間のデータ通信に支障
- 作業: 32bit から 64bit への移行
- 作業領域が不足していてもテーブルは生成されたが、その際に他のプログラムが使う領域に上書き



# 変数

#### let で変数の定義

```
1 fn main() {
2    let x = 5;
3    println!("The value of x is: {}", x);
4    x = 6; // ERROR
5    println!("The value of x is: {}", x);
6 }
```

#### 変数を可変するには、mut を使う

```
1 fn main() {
2    let mut x = 5;
3    println!("The value of x is: {}", x);
4    x = 6;
5    println!("The value of x is: {}", x);
6 }
```

# データ型

## データ型(数値)

• Rust は静的型付け言語

大きさ	符号付き	符号なし
8-bit	i8	u8
16-bit	i16	u16
32-bit	i32	u32
64-bit	i64	u64
arch	isize	usize

大ささ	浮虭小釵点	
32-bit	f32	
64-bit	f64	

ナー、公共「米」

Table 2: 浮動小数点型

Table 1: 整数型

ほかには char 型(a, b, c …)や bool 型(true, false)などがある

# 配列

#### 配列

• 配列は同じ型の要素を持つ

```
1 fn main() {
2   let a: [i32; 5] = [1, 2, 3, 4, 5];
3 }
```

i32 が 5 つの要素を持つ配列 a を定義で配列の長さは変更できない

5 }

```
文字列は文字(char)の配列
```

1 **fn** main() {

文字列は、主に &str 型と String 型がある

```
let world: &str = "world!";
println!("Hello, {}", world);

1 fn main() {
    let mut world: String = String::from("world");
    world.push_str("!");
    println!("Hello, {}", world);
```

String 型は配列の長さを変更できる(Vec)

rust

# 関数、制御フロー

## 関数、制御フロー

省略

# 構造体とメソット

### 構造体とメソット

```
#[derive(Debug)]
                                                                              rust
  struct Rectangle {
      width: u32,
      height: u32,
5
  impl Rectangle {
8
      fn area(&self) -> u32 {
9
           self.width * self.height
10
11 }
12
13 fn main() {
14
      let rect1 = Rectangle { width: 30, height: 50 };
15
16
      println!(
17
           "The area of the rectangle is {} square pixels.",
18
           rect1.area()
19
      );
20 }
```

### 構造体とメソット

関連するデータと機能を1つの単位にまとめることで、コードの体系化と再利用性が 向上する

## ジェネリック

#### ジェネリック

プログラムを抽象化すると、コードの再利用性が高まり、可読性が向上する

```
1 struct Point<T> {
2      x: T,
3      y: T,
4 }
5
6 fn main() {
7     let integer = Point { x: 5, y: 10 };
8     let float = Point { x: 1.0, y: 4.0 };
9 }
```

ジェネリック<T>を用いることで、i32 型や f64 型などの複数型を受け取ることができる<sup>1</sup>

この型はめちゃくちゃ深いので、興味があれば調べてみてください

<sup>&</sup>lt;sup>1</sup>ジェネリックが用いられている標準ライブラリの例: 0ption<T>, Result<T, E>

Rust のトレイトは、複数の型で共有される振る舞い(メソッド)を定義するインターフェースのような機能

以下の例では、Summary トレイトを定義し、NewsArticle と Tweet 構造体に Summary トレイトを実装している

```
format!("{}, by {} ({})", self.headline, self.author,
14 self.location)
15
16 }
17
18 pub struct Tweet {
19
      pub username: String,
20
   pub content: String,
pub reply: bool,
22
      pub retweet: bool,
23 }
24
25 impl Summary for Tweet {
26
      fn summarize(&self) -> String {
27
          format!("{}: {}", self.username, self.content)
28
29 }
30
31 fn main() {
32
     let tweet = Tweet {
33
          username: String::from("horse ebooks"),
          content: String::from(
34
```

```
"of course, as you probably already know, people",
),
reply: false,
retweet: false,
};

println!("1 new tweet: {}", tweet.summarize());
}
```

# 所有権とライフタイム

#### 所有権の不便な例

#### Rust のキモいところ

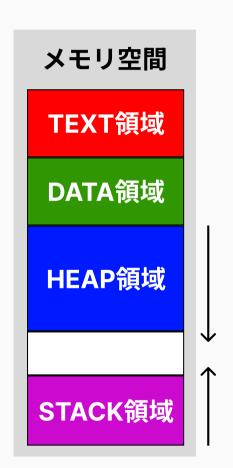
```
1 fn main() {
2    let s1 = String::from("hello");
3    let s2 = s1;
4
5    // println!("{}, world!", s1); // ERROR
6    println!("{}, world!", s2);
7 }
```

```
1 fn main() {
2    let s = String::from("hello");
3    takes_ownership(s);
4    // println!("{}", s); // ERROR
5 }
6
7 fn takes_ownership(some_string: String) {
    println!("{}", some_string);
9 }
```

#### ヒープとスタック

所有権を理解するためには、ヒープとスタックの違いを理解する必要がある

- TEXT 領域
  - ▶ 機械語に翻訳されたプログラム
- DATA 領域
  - ▶ 初期値のデータ
    - global 変数, 静的変数
- HEAP 領域
  - ▶ 寿命があるデータ(可変長)
    - malloc()でスタック領域を確保し、free()でメモリの開放
- STACK 領域
  - ▶ stack(下から積み上げ)をしていく寿命があるデータ(固定長)
    - ヒープ領域を参照するポインタを持つことが多い



### バイナリを見る

#### Rust のバイナリを見てよう

```
1 $ objdump -S binary_file terminal 2 $ objdump -h binary_file
```

.text や.rodata や.bss(heap に対応)がある

### 所有権のルール

- 値(データ)は所有者と呼ばれる変数と対応
- ・いかなる時も値の所有者は一つ
- 所有者がスコープから外れたら、値は破棄

参照渡し(&)を使うことで、所有権を移さずに値を借用

### 所有権のルール

- ・ 値(データ)は所有者と呼ばれる変数と対応
- ・いかなる時も値の所有者は一つ
- 所有者がスコープから外れたら、値は破棄

参照渡し(&)を使うことで、所有権を移さずに値を借用

むずかしい

#### 所有権のイメージ

```
1 fn main() {
                                           rust
                                                            STACK領域
                                                   短命
      let x = String::from("hello
                                                                                     HEAP領域
world");
      func(x);
                                                                                 hello world
                                                            len: 11
6 fn func(s: String) {
                                                           Icap: 100
                                                                             所有権が移動
      println!("{}", s);
                                                           len: 11
                                                   長寿
8 }
                                                           cap: 100
```

String の実態はポインタ、長さ、容量の3つの要素とヒープ上の文字列

```
データの流れ
```

- 1. x が stack + ヒープにメモリ確保(malloc) + x がデータの所有権を持つ
- 2. s が stack + 所有権の移動(move)
- 3. func のスコープの外で s が破棄(push)、ヒープのメモリを解放(free)

### 所有権のイメージ

```
1 fn main() {
                                          rust
                                                           STACK領域
                                                  短命
      let x = String::from("hello
                                                                                    HEAP領域
 world");
      func(&x);
                                                                               hello world
                                                           len: 11
 fn func(f: &str) {
      println!("{}", f);
                                                           len: 11
8 }
                                                  長寿
                                                           cap: 100
                                                                          所有権
```

&str の実態はポインタと長さの 2 つの要素とヒープ上の文字列

#### データの流れ

- 1. x が stack + ヒープにメモリ確保(malloc) + x がデータの所有権を持つ
- 2. f が stack + x を参照 + 所有権の移動が起こらない
- 3. func のスコープの外で f が破棄(pop)、所有権を持っていないのでヒープのメモリ は解放されない

#### ライフタイム

func あとに x を使えるか使えないかは

- heap のメモリが解放されているかどうか
- 所有権を持っているかどうか

ライフタイム(その参照が有効になるスコープ)が自然にわかる

```
1 {
2    let r;
3    4    {
5         let x = 5;
6         r = &x;
7    }
8    println!("r: {}", r); // ERROR
10 }
```

#### 問題 1

#### 通る?

```
1 fn main() {
2  let mut v = vec![1, 2, 3, 4, 5];
3  let first = &v[0];
4  v.clear();
5  println!("The first element is: {}", first);
6 }
```

#### 問題1

#### 通る?

```
1 fn main() {
2   let mut v = vec![1, 2, 3, 4, 5];
3   let first = &v[0];
4   v.clear();
5   println!("The first element is: {}", first);
6 }
```

vector の要素への参照を保持したまま、vector の内容をクリアしている。これは、無効な参照を引き起こす可能性があるため、コンパイラによってエラーとして検出されます。

```
struct Person {
                                                                                rust
2
3
4
5
       name: String,
       age: u32,
  fn main() {
       let p = Person {
8
           name: String::from("Alice"),
           age: 30,
10
       };
       let name = p.name;
12
13
       println!("The person's age is: {}", p.age);
14
       println!("The person's name is: {}", p.name);
15 }
```

```
struct Person {
                                                                              rust
      name: String,
34
      age: u32,
5
  fn main() {
      let p = Person {
8
           name: String::from("Alice"),
           age: 30,
      let name = p.name;
12
13
      println!("The person's age is: {}", p.age);
14
      println!("The person's name is: {}", p.name);
15 }
```

構造体の一部のフィールド(name)を移動させると、元の構造体全体が部分的に移動した状態になり、移動されたフィールドにアクセスできなくなる



#### $+\alpha$

#### 追加でしゃべりたいこと

- ptr と len の万能さ
  - ▶ 配列のスライス
  - ・ 文字列の抽出
  - ▶ Copy しないことのメモリ効率
- 'static, const のデータは. rodata にある
- let x = 5; let y = x;は Copy なので注意

# 参考文献

### 参考文献

- The Rust Programming Language 日本語版 [link]
  - コードをたくさん引用しました。ありがとうございます。
- •【Rust 入門】宮乃やみさんに Rust の所有権とライフタイムを絶対理解させる [link]
  - ▶ 所有権の世界一わかりやすい説明